

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年10月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872600255		
法人名	ケアサポート かさい		
事業所名	グループホーム 銀の鈴		
所在地	加西市畑町1496-64 (電話)0790-43-7001		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】 (19年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 2人, 非常勤 10 人, 常勤換算5.4人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	3階建ての	1,2,3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	8名	男性	名	女性	8名
要介護1	2	要介護2		2	
要介護3	2	要介護4		2	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 88歳	最低	83歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	城谷医院 西村歯科
---------	-----------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

落ち着いた住宅地の中にあり、玄関周辺の四季折々の花々や木々の手入れが行き届き、入居者や訪れる人の気持ちに安らぎを与え親しみのある家庭的な空間を大切にされたホームである。地域とのつながりや家族の協力のもと、入居者の立場に立ってその人らしさを大切にされた支援を心掛けている。職員一人ひとりの質の向上に向けてホーム内外での研修や学習会の取り組みに積極的に職員の学ぶ姿勢を大切に勤務の調整等の支援を行っている。入居者の健康面の維持管理の為に日常での健康チェックやかかりつけ医・協力医との連携体制が整い、今後は24時間体制の医療連携体制の導入も検討しており、入居者への更なるサービスの質の充実を目指している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価については勉強会を実施し主な改善点について話し合った。職員間での情報の共有の徹底・研修計画の策定による定期的な研修の実施等について、改善策を具体化し実践する事によりサービスの質の向上に繋げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は管理者・ケアマネージャーが中心となり取り組んで行き、最終的に職員間で確認していく為の話し合いを持った。今後は管理者・職員が全員で自己評価の項目一つひとつの点検を行う事によって日常のケアを見直し確認する機会と捉えていく取り組みを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	現在までに2回開催し、会議の目的・ホームの近況・第三者評価等話し合われた。参加者との意見交換の中で取り上げられた課題について検討した後、困っている地域住民の為にホーム機能を地域に向けて還元していく取り組みが現在実施されている。グループホーム連絡会議参加の中で市との関わりを継続し、市より派遣された介護相談員が定期来訪し入居者等と話す機会を持ち、相談や苦情等を表出しやすい場を作っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	毎月入居者の様子等を文書にて家族に報告し、状況に応じて入居者にも手書きで近況等を書いてもらえるよう支援している。受診経過・服薬状況・金銭管理について毎月報告を行っている。介護計画の説明時に家族から意見等を聞くよう努め、出された相談や苦情は「苦情報告書」や「ご意見カード」を作成し職員間で話し合われ速みやかな対応を心掛けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	近隣の人々との間では、季節の野菜や手作りのお菓子・みやげ物等のおすそ分けが自然な形で行われ、気軽に立ち寄り声をかけあう関係が継続している。地域の自治会や民生委員との連携を大切に、2ヶ月に1回開催の「いきいきサロン」に参加し、地域の年中行事である夏祭り・収穫祭で住民との交流が続いている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境のもと、一人ひとりに適したきめ細かな対応により地域の中で安心して生活していける事を目指し、地域密着型サービスとしての理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念や方針はミーティングやカンファレンスで実践に向けた話し合いを重ね、ケアの拠りどころとして意識付けしている。介護計画作成時においても理念が反映された計画になるよう話し合われている。理念は居間や事務所に分かりやすく掲示している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々との間では、季節の野菜や手作りのお菓子・みやげ物等のおすそ分けが自然なかたちで行われ、気軽に立ち寄り声をかけあう関係が継続している。地域の自治会や民生委員との連携を大切に、2ヶ月に1回開催の「いきいきサロン」に参加し、地域の年中行事である夏祭り・収穫祭で住民との交流が続いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価については職員全体で勉強会を開催し、情報の共有の徹底について・研修計画の策定による定期的な研修の実施について等検討し改善に向けて取り組んでいる。自己評価は管理者・ケアマネージャーが中心となり取り組み最終的に職員間で確認し合う為の話し合いを持った。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現在までに2回開催している。会議の目的についての説明と理解・ホームの近況・第三者評価について等話し合われた。参加者との意見交換の中で取り上げられた「地域における認知症の理解や関わりについて」検討し合い、困っている地域住民の為に、ホーム機能を地域に向けて還元していくような取り組みを現在実行に移している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1回開催しているグループホーム連絡会議の中で市との関わりが継続している。市より派遣された介護相談員が月に1回ホームに来訪し、入居者や職員と話す機会を持ちホームのサービスの質の向上のための活動を継続している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月入居者のホームでの様子や毎月の行事等を文書にて家族に報告している。状況に応じて入居者自身にも手書きで近況等を書いてもらい文書にそえる事ができるよう支援している。受診経過・服薬状況・金銭管理についても毎月の報告を行っている。家族来訪時や入居者の状態変化があった場合は、その都度適切な報告がなされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に家族の意向を聞くと共に、介護計画作成の説明時に家族の意見や要望を聞くよう努めている。出された相談や苦情については「苦情報告書」や「ご意見カード」を作成し職員間で検討後、改善策を家族に伝え速やかな対応ができるよう取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在は職員の異動は少ない状況である。異動・退職についての入居者・家族等への説明については、入居者のダメージを最小限にするよう配慮し、状況によっては入居者の不安材料を少なくする為にも異動等を伝えない場合もあり、その都度柔軟な対応を取っていくよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>市の主催するセミナーへの参加については、勤務体制の調整等を行い職員の参加を促している。参加後は報告書を作成し、会議等で報告の機会があり情報を共有している。内部研修については研修計画をもとにケアマネジャーが中心となり定期的な開催の機会がある。今年度は緊急時対応、感染症と食中毒、身体拘束、介護技術の習得等の内容について学習していくよう取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催されるグループホーム連絡会に管理者やケアマネジャーが参加し、ネットワーク作りや相互間での見学の機会がありサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人や家族の意向を把握する為自宅訪問やホーム見学ができる体制がある。居室に空きがある場合は、ショートステイの受け入れを行い、ホームの暮らしに徐々に馴染めるよう工夫している。利用者が納得してサービス開始ができるよう、家族の協力で入居後も外泊や家族との面会について支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者を人生の先輩として尊重し、その人らしい暮らしを支えていく為に、入居者の生活歴を把握し、個々の力が発揮できるよう場面作りに取り組んでいる。入居者を介護されるのみの立場におかず、日々の食事作り・掃除等家事の中やアクティビティの中で職員も学んだり、教えてもらったりする機会がある。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に生活歴・趣味・大切な経験等を知り本人の全体像を把握し、その人らしいホームでの暮らしに活かせるよう支援している。意思表示が難しい入居者に対しては見守りを基本に表情やしぐさ等で見極め、ケアカンファレンスやミーティングで本人の思いについて情報を共有している。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に本人の生活歴等を詳しく把握しアセスメントを行い本人のニーズを明確にしている。ケアカンファレンスにおいて職員間で検討し、本人や家族の意向を反映した個別具体的な介護計画を作成している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状況変化や家族の希望があった場合は柔軟に対応し見直しを行うと共に、定期的には3ヶ月に1回の見直しを基本としている。日常のケアが介護計画にそって支援できているか日々点検し、職員間で情報共有できるよう取り組んでいる。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>短期入所、通所介護の支援体制が整っている。状況に応じて通院時の付き添いの支援があり、入退院時のサポートや自宅への外泊支援等も入居者や家族の希望にそって対応している。</p>		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者や家族の希望を大切にしたかかりつけ医への受診を支援すると共に、体調が安定した場合等家族の納得のもと協力医療機関へ移行する場合もある。眼科・皮膚科・整形外科等は家族の協力を得てかかりつけ医への受診を支援している。かかりつけ医への受診時は、本人の健康状態・受診結果についてホームと家族・担当医の間で情報が共有できるよう体制を整えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者が重度化した場合は本人や家族の意向を尊重すると共に、ホームが「できる事」「出来ない事」を明確にし、本人や家族の納得が得られるよう、状況の変化に応じて話し合いを重ねている。今後は24時間対応が可能な医療連携体制を整え看護師の配置等検討している。</p>		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>重要事項説明書や契約書に「守秘義務」について明記し入居時に説明と同意をもらっている。「ホームの運営方針」に入居者のプライバシーの尊重を明示し、入居者の尊厳を大切に、一人ひとりの状況に適した言葉かけや対応を心掛けている。内部研修でプライバシーの確保について確認し合い徹底できるよう話し合っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の基本的な流れの中で、入居者の意思を尊重し自己決定していく場面を可能な限り作っており、意思表示が難しい人には表情やしぐさから意向を汲み取りさりげなく支援している。日常生活の中で近隣への散歩やアクティビティへの参加等は本人の気持ちにそった促しを行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎週入居者の献立の希望を聞く機会を設け、可能な限り食材の買物・調理・配膳・後片づけは職員と共に行っている。楽しくくつろいだ食事時間になるよう、職員は適切な言葉掛けやBGMに配慮し、入居者と同じ食事を摂りながらさりげなく見守り支援している。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者の状況や体調に応じて毎日入浴できる体制を整えており、介助が必要な入居者へも可能な限り入浴回数が増えるよう配慮している。入浴拒否傾向のある人には職員の声かけ等を工夫し、職員同士協力し合って対応していくよう努めている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の生活歴の中で趣味や関心のある事を把握し、一人ひとりにあった楽しみ事への取り組みがある。入居者の気持ちにそって自らの役割等を自発的にやってもらえるよう言葉かけを工夫している。調理・テーブル拭き・洗濯物を洗う等の家事や、習字・刺し子・刺繍・カラオケ等のレクリエーション等にて自然な形で入居者一人ひとりが力を発揮できるような場面作りの支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域行事である夏祭り、いきいきサロン、お花見、ぶどう狩り等積極的な外出の機会があると共に、日常では近隣への散歩や外出等で個々の希望にそって個別対応が出来るよう体制を整えている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は入居者の状態によって安全確保のために施錠する時があったが、現在は入居者の状態も安定し開錠している状態である。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知機とスプリンクラーを設置している。火災等に備えて確実な避難誘導ができるよう避難路の確保や管理者への直接コール等緊急時の体制を整備している。定期的に避難訓練を実施し、地域住民へは自治会を通じて協力を依頼している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については栄養のバランスやおおよそのカロリーを把握し、入居者の好みや体調によって食材や調理の工夫等柔軟な対応が出来るよう、慢性疾患治療中の入居者への食事管理も可能な限り支援している。食事や水分の摂取の必要性を理解しており、食事摂取量の記録を残し確認している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>緑の木々や草花に囲まれた玄関周りは季節の流れを感じさせ、入居者や訪れる人が安らげる雰囲気がある。共有空間では居間・廊下・居室に季節の花々や親しみのある装飾品を置き、入居者の好みに合わせたBGMを流し家庭的でゆったりとくつろげる環境への工夫がある。家庭的な住環境を大切にしながら室内の段差に配慮し、要所への手すり設置により安全かつ自立した生活への支援を行っている。ホーム内の各箇所への空気清浄機の設置や適宜換気を行う事で空気のよどみのない環境となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内への家具の持ち込みは自由で、仏壇、家族写真、趣味の作品等飾り、職員は家族の協力のもと、入居者にとって安心し落ち着ける居室空間になるよう支援している。居室の表札は手作りで変化を持たせ、場所間違いの混乱を防ぐ配慮が来ている。</p>		

は、重点項目。